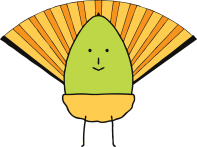
■**京都伝統文化の森推進協議会/第34回身心変容技法研究会合同公開セミナー「森と身心変容」開催趣旨文**

**2015年3月5日　鎌田東二**

****

日時：2015年3月5日（木）13：00～17：00

場所：京都大学稲盛財団記念館3階大会議室（無料、予約不要）

基調講演①：「木彫刻のアニミズム」三宅一樹（彫刻家・元多摩美術大学非常勤講師）

　基調講演②：「森の自然と人のかかわり――生態学・進化生物学の視点」伊勢武史（生態学者・進化生物学者・京都大学フィールド科学教育研究センター准教授）

総合討論

主催：京都伝統文化の森推進協議会

共催：京都大学こころの未来研究センター（科研：基盤研究A「身心変容の比較宗教学――心と体とモノをつなぐワザの総合的研究」＋ワザ学研究プロジェクト）

１、「森」と「身心変容」～セミナー開催趣旨

　人類（ヒト）は「森」から生まれ、「森」に依拠して生きてきた。

　大橋力氏の『音と文明－音の環境学ことはじめ』（岩波書店、2003年）によると、熱帯雨林の森の中の音を計測すると、そこでの森のざわめき音は渋谷のスクランブル交差点よりも騒がしい。だが、大都会の機械音などの「騒音」は不快に聴こえるが、森の「噪音・雑音（？）」は心地よく聴こえ、リラックスできるという。そこにはいったいいかなる生理－心理学―神経科学的脳内メカニズムがあるのだろうか？

　比叡山延暦寺の千日回峰行者はなぜ千日間も比叡山の山中を歩き回るのか？　その時、回峰行者の「耳」と「聴覚」はどのような「身心変容」を遂げているのだろうか？　「天台本覚思想」とされる「草木国土悉皆成仏」（草も木も国も土も、いのちあるもの、存在する森羅万象すべてが成仏する、している。そのままで仏菩薩であるという考え）の命題はそのような回峰行者の「身心変容」した聴覚や視覚から導き出され来たのではないだろうか？

　またなぜ修験者は、吉野熊野や羽黒山・月山などで「山岳跋渉」し「験力」を獲得しようとするのか？　「験力」とはどのような「力」なのか？　その「身心変容」を生み出す森。

　人はなぜ森の中で「身心変容」するのか？　なぜ森に入りたがるのか？　いったい「森」とは何か？

　なぜ「天狗」は「羽根」が生えているのか？

　『平家物語』には、天狗のことが、「人にて人ならず、鳥にて鳥ならず、犬にて犬ならず、足手は人、かしらは犬、左右に羽根はえ、飛び歩くもの」と説明されている。修験道に出てくる烏天狗。そして、羽黒修験の冬の峯の松例祭の際の「験競べ」の「烏飛び」。これら天空飛行する「力」の獲得は森から得たものに違いない。その背中に羽根が生えるという「身心変容」が修験道を行事ているうちに起ってくるのだ。

　また、神社を「鎮守の森」と呼ぶ神社神道の「森＝杜＝社」は、いったい何を「鎮守」するのであろうか？

２、平安京持続千年都市5原則

* 1. 森の都～豊かで多様な京都三山
  2. 水の都～豊富な水と地下資源
  3. 祈りの都～心を潤す祈りと祭と修行
  4. ものづくりの都～生活を支え楽しむ物質基盤
  5. ネットワークの都～自助の不足を連携と共助を活用

自然資本＋社会資本＋文化（芸術・芸能）資本＝持続千年都市平安京京都

３、京都の「森の文化」を後世に「豊かな形」で伝えるために、今、何をなすべきか？